

平成 23 年度第 9 回遺跡説明会

平成 23 年 12 月 22 日 (木) 開催

まえやいせき
戸田市 前谷遺跡

＝地下 30cm の古代遺跡＝



前谷遺跡は、灰黄色の粘土層を基盤とした細長い自然堤防の上に営まれています。この自然堤防は旧入間川（荒川）の流れにより形成された微高地で、標高は約 3m です。

今回の発掘調査は、宅地の造成工事に先立つもので、（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施しています。

これまでに方形周溝状遺構（溝で囲まれた建物跡）5基、井戸跡1基、土壇約30基、溝跡1条などが発見されました。そこからは、古墳時代前期（約1700年前）の壺形土器や台付甕、ミニチュア土器、古墳時代後期（約1500年前）の土師器の坏、平安時代（約1200年前）の須恵器の坏、室町時代（約600年前）の常滑焼の甕などが出土しています。

前谷遺跡は、戸田市教育委員会により過去に2回の発掘調査が行われていますが、その時も多くの方形周溝状遺構が発見されています。古墳時代前期、ここには米作りのためにそれまでは手の加えられなかった低地を開拓した、戸田の先駆者たちが暮らした大きなムラがあったことが明らかとなりました。

主催：財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催：戸田市教育委員会・埼玉県教育委員会

井戸跡

直径約1mの素掘りの井戸で、埋まる途中で投げ入れられたのか、小型の壺形土器がほぼ完全な形で見つかりました。飲料水用の井戸だったのでしょうか。

方形周溝状遺構

方形周溝状遺構は、以前はお墓（方形周溝墓）と考えられていましたが、中心部に4本の柱穴の伴うものがあることから、近年では「周溝を持つ住まいなどの建物跡」ではないかとする考えが有力となっています。

